

## 広報ただみ診療所

朝日診療所 所長 わかやま 若山 たかし 隆



皆さまこんにちは！今回は新型コロナウイルスワクチンに関するお話をしようと思います。厚生労働省から、新型コロナウイルスワクチンの3回目接種が行われることが発表されました。対象はワクチンの2回目接種を完了した日から8か月以上経過した18歳以上の方になります。なぜ3回目接種が必要になったのかというと、2回目接種を完了して6か月以上が経過すると、ワクチンの発症予防効果が低下してくるからです。11月半ば現在で、日本では減少してきたコロナウイルス感染ですが、ワクチンの接種が早くから開始されたヨーロッパの国々などで再び新型コロナウイルス感染症が流行（11月19日 ドイツでの一日の感染者数57,738人）しています。日本でも同様に2022年初旬から新型コロナウイルス感染の再拡大が起こるのではないかと危惧されています。そこで3回目のワクチン接種が必要になるという訳です。ファイザー社の臨床試験によると、ワクチンを2回のみ接種した人に比べて、3回目接種によって発症予防効果が95.6%もあるとのこと。その他の論文でも、重症化予防効果（92%）、死亡抑制効果（81%）も認められるそうです。ワクチンを打っていない人ではなくて、2回打った人と比べて3回目の接種でこれだけの効果が出るのですから驚きです。只見では2022年2月から3回目のワクチン接種を実施できるよう準備を進めています。詳細が決まり次第、町から広報があると思いますのでお待ち下さい。

また5～11歳の方への新型コロナウイルスワクチン接種も検討されています。小児はもともと新型コロナウイルスの重症化リスクが低いのですが、ワクチンを2回接種することにより発症予防効果が90.7%認められたという発表があります。現時点ではワクチン関連の重篤な有害事象も発表されておりません。順調に承認が降りれば2022年2月ごろに開始されますので、合わせて町からのお知らせをお待ち下さい。

## 地域おこし協力隊として Vol.84

只見町だからできる

「探究の場」を目指して

只見町教育振興協力隊

にわ たかかず  
丹羽 貴一



只見町に暮らし始めて、早くも半年以上が経ちました。

4月に着任した時は、残雪の中で桜を楽しみに待つ日々でしたが、気づけば年末が近づき、只見で初めての冬を迎えようとしています。私は、町下庁舎にある公営塾「心志塾」スタッフとして、只見高校生の学習サポートを始め、様々な面で高校と連携しながら活動しています。

その中で、高校生が只見町の大人と協働し興味のある分野や課題に取り組む「総合的な探究の時間」も、町と高校が連携した活動のひとつです。今年は、「観光」「ものづくり」「食品販売」「企業PR」「空き家」の5分野で高校1、2年生がプロジェクト活動を行っています。私が今年度授業サポートをさせてもらう中で、現場に出て、プロの大人と「やってみる」こと、そして振り返って自分を知り、やりたいことや進路を考えるきっかけをもつことの大切さを強く感じています。先日も、森林の分校ふざわさんの協力で、癒しの森体験イベントを高校生が運営し、参加者からとても好評をいただきました。自分でイベントを企画し、また当日運営の中でお客さんをもてなし、直接に感謝の言葉をもらう経験は、高校生が「将来何をしたいのか」を考えるきっかけを得る大事な場になるはず。こうした機会づくりに、仕事の合間をぬって日々協力してくださっている町の方々には、本当に感謝しております。

今年度は、高校生58名が13班に分かれてプロジェクト活動を行っています。どの班も思いをもって活動していますが、その企画やアイデアを実現する上で、助言や支援を行う伴走者の存在は欠かせません。高校の先生や公営塾のスタッフがその役割を担っていますが、各班を十分にサポートできる人数がないのが現状です。探究の支援団体設立に向けて現在高校や町の方とも準備を進めていますので、形になった際はぜひご協力よろしくお願いします！